

令和3年度 岡山県立西大寺高等学校 重点目標

		重点目標と評価		
学校経営目標	新しい時代を生き抜く力を持った生徒の育成 ～自己肯定感を高め、進路目標に向かって主体的に学ぶ生徒の育成～	1 学びの環境を整備し、生徒の能力を最大限に引き出す。 (1) 物理的・精神的環境を整え、生徒の心身の健全な成長を支援する。 (2) 進路指導(=キャリア教育)体制を再構築し、生徒・保護者・地域の満足度を高める。 (3) 地域の人的・物的資源を活用しながら生徒の挑戦を支援し、生徒の希望の実現に努力する。		
		2 生徒の思考力・判断力・表現力を高め、知識・技能の習得及び学びに向かう力の育成に努める。 (1) 主体的・対話的で深い学びの実現を核とし、ICT機器も利用して授業力向上に努める。 (2) 生徒の活動を肯定的観点から評価し、エビデンスに裏打ちされた教育活動を行う。 (3) 総合的な探究活動等の充実を通じて、地域貢献意識や自己肯定感を高める。		
		3 小中学校・地域との連携を進化させるとともに、中学校向け広報活動の充実を図る。		
該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
1	教務課	○新学習指導要領の実施に向けて、必要な整備(教育課程、内規、各種業務など)を行う。 /状況の変化に対応し、学習環境を整える。	○新教育課程表の見直し、新教育課程への移行に伴う内規や各種書類の修正、教科書選定等の関連業務を正しく行なう。 ○コロナ禍での状況の変化に敏感かつ適切に対応し、学習態勢を整える。	○4年度からの新教育課程が問題なくスタートできる状態が年内にできている。 ○「コロナ禍であっても…」の回答の「よくあてはまる」が「ややあてはまる」を上回る。 R2 よく37<やや45
	進路指導課	適切な進路情報を提供することで進路意識を喚起し、受験に対応できる確かな学力を定着させることで生徒が希望する進路の実現を可能にする。	学習活動を中心とした生活習慣の早期確立を図り、実力考査、校外模試、補習授業、土曜講座を通して入試や就職試験に対応できる学力の定着を図る。 『進路便り』等の広報紙や集会、CCTを通して、タイムリーな進路情報の提供を行うとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。 より高い進路実現に向けて粘り強く最後まで頑張り抜く生徒を増やす。	・学校自己評価アンケートの進路に関する情報提供の向上。(肯定的回答 生徒95%、保護者90%以上)(R2年度 生徒93 保護者83) ・3年生の普通科・国際情報科生徒の90%以上が大学入試共通テストを受験する。【R2年度 89%】
	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人として必要な資質を身につけるための援助を行う。	1.TPOに応じた態度の醸成を通じて、公共心に富んだ社会人としての自立に必要な状況把握力・傾聴力などを向上させる。 2.エビデンスを明示した論理的な対話により、交通法規も含めたコンプライアンスの意識を高めさせる。 3.生徒会活動などの特別活動や部活動に、本校の定めた活動目標や方針に基づきながら効率的に取り組みせ、心身の健全な成長を促す。	1-1.スカートなどの制服の着こなしや頭髪などの身嗜みを整えられる生徒が増加している。 1-2.積極的に挨拶できる生徒が昨年度より増加している。 2.重大な交通違反や事故の件数が0となり、かつ学校自己評価アンケートにおける質問「社会人としてのマナーやルールを学習する機会がある」の生徒の肯定的回答が87%以上になる。 【昨年度 重傷を伴う事故1件、84%】 3.学業優先の意識を持ちながら、特別活動や課外活動に能動的に参加できる生徒が増加している。 1-1、1-2及び3については、Google Workspace for Educationを使用したアンケートに対し、年度内に改善したと回答する教員がそれぞれ60%を超えている。
	厚生課	・校内美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 ・生徒の心身の健全な成長を支援する。	・教室環境を整備するとともに清掃状況をチェックしてトイレ清掃を徹底する。 ・教職員が体調不良者への対応を適切に行うことができるよう、研修や情報共有の徹底を図る。	・学校自己評価アンケートで「校内美化が図られ、落ち着いた教室環境が整っている」の教員と生徒の肯定的回答が上昇する。【R2年度 教員76%、生徒73%】 ・学校自己評価アンケートで「怪我や体調不良の場合に適切に対応してくれる」の生徒と保護者の肯定的回答が95%を維持する。【R2年度 生徒95.6%、保護者95.6%】
	図書課	・図書館を活用した探求活動の充実を図り読書に親しむ態度を育てる。 ・視聴覚・情報処理関連機器の活用頻度を向上させる。	・図書委員会活動の充実と、授業での図書館利用を促進し、読書への関心を深める。 ・継続した保守により利便性を向上させるとともに活用の研修会を開催する。	・授業・CCT・LHRでの図書館利用時間数が1年で120時間以上、貸出冊数が4,700冊を超える。【令和2年度 100時間以上、5,000冊】 ・3冊以上借りる生徒数が昨年の43%から50%にアップする。【令和2年度 60%】 ・ICT機器の週1度程度の充電・アップデートや視聴覚機器の月1度程度の点検を80%以上行うことにより、利便性が向上する。
	1年	chromebook等のICTの効果的な活用により家庭学習習慣を定着させ、学習を中心に据えた基本的な生活習慣の定着を図る。	○普通科と国際情報科において、週当たり1日平均の家庭学習時間を3時間以上確保させる。 ○商業科は各種検定の取得に向け、計画的・自主的に学習に取り組みさせる。 ○学習の定着を図るため、週末課題等の反復学習に継続的に取り組ませる。	○普通科・国際情報科では家庭学習時間の定着が図られ、週当たり一日平均の学習時間が3時間以上の割合を40%以上。【R2年度 34% R1年度21%】 ○商業科は検定合格者を85%以上。【R2年度全検定合格率79.8%】 ○課題の提出率が90%以上。【R2年度週末課題提出率90%以上】
	2年	生徒の能力を最大限に引き出すことができるように、目標を定めさせ、個に応じたきめ細かな指導をすることで、生徒の満足度を高める。	進路情報の提供、個に応じた面談、CCTや授業における進路学習・探求学習	学校自己評価アンケートの次の2つの項目において肯定的評価が次の割合以上となっている。 ・「進路について、担任や進路指導課の先生が相談ののってくれる。」90%以上 【現状 R2年度2年次 肯定的評価89.6%】 ・「進路志望調査」で「未定」の生徒が12人以下 【現状 R2年度2年次進路志望調査(全科) 11月未定21人 1月未定19人】
3年	進路実現に向けて適切な進路指導を行い、生徒の能力を最大限に発揮させた目標を実現させる。	細やかな面談を行い、適切な進路情報を与える。 保護者、教師間の連携を密にし、多角的な指導体制を心掛ける。 学習活動の中にPDCAサイクルを意識させる。	学校自己評価アンケート 進路に関する3項目(5.12,13)について「よくあてはまる」と答える生徒の割合が前年度より5%アップする。【前年度平均は51%】	

2	総務課	「総合的な探究の時間」などの充実を通して生徒の地域貢献意識や自己肯定感を育む	各科・課・教科・CGT運営委員会との連携を深め生徒の活動が充実できるよう、連携できる機関や人的資源を開拓し広げていく。	生徒の振り返りアンケートにおいて「地域貢献意識が高まった」「自己肯定感が高まった」の項目が75%を超えている。
	商業科	ビジネス活動に関する専門的な学習を深め、関連する検定や資格を取得し、社会貢献できる人材を育てるとともに、新学習指導要領実施に向けた取組みを進める。	・地域の人的・物的資源を活用して、ビジネスマナーの向上や国内外の経済事情の把握、金融・金銭教育(令和2～3年度 研究校として)や租税教育の充実、勤労精神や地域社会貢献に対する意識を持たせ、周知する。また、必要な情報教育機器の整備を具現化する。 ・新学習指導要領実施に向けた取組みとして、新科目における教材・教具及び指導法の準備及び研究を進める。また、生徒一人一台端末を軸としたICT活用授業について、より効果的な研究と実践を進める。	・金融教育や租税教育を核として、ビジネスマナーや経済事情に関する講演会等の実施及び商品販売に関する地域社会貢献活動における満足度が90%を超えている。また、行われた活動をすべての生徒に周知する。【令和2年度 85%】 ・インターネットに接続され、かつ様々な情報を処理するために必要なハードウェアやソフトウェアが整備されている。 ・新学習指導要領の実施に向け、外部の情報を収集しながら具体的な教材・教具及び指導法の準備ができ、教員の意識も高揚し、実践に向けた準備が整う。ICT活用授業については、科内で効果的な指導法について適宜情報共有し、生徒がICTを活用し、互いの考えを交換したり、共有したりする授業ができる教員が90%を超えている。
	国情科	岡山大学留学生との交流会、イングリッシュキャンプ、校内外のスピーチコンテストなどの行事を通して、生徒が主体的に課題を見つけ学ぶ授業を展開する。	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の評価と改善を行う。 ・各行事の活動を見直し、生徒の英語を学ぶことに対する興味や関心を育て、英語でのコミュニケーション能力を伸ばす。 ・科集会以て上級生から下級生へ学校生活や勉強方法等についてアドバイスをを行うことで、進路意識を高める。	・2年生の進研模試の英語リーディングのGTZ(学習到達ゾーン)A3以上の生徒が13名以上となる。【R2年度1年生10名】 ・行事ごとのアンケートにおいて、「伝えたい内容を間違いを恐れず英語で積極的に伝えることができた」と回答した生徒の割合が80%以上となる。
	1年	○生徒はCGTにおける進路研究や探究活動、また社会貢献活動等の様々な活動を通して社会性や規範意識を養い、自己肯定感を高める。 ○明確な進路目標を持たせ、目標達成に向けて主体的・自主的に取り組むことができる生徒を育成する。	○大学訪問や出前授業、CGT等においてICTを活用して情報収集・分析を行い、進路についての理解を深め興味を広げていくとともに、自己のライフプランについて考えさせる。 ○実体験からの学びを通して自ら課題を解決していく力を身につけるため、校内外の活動への積極的な参加を促す。	中間期と年度末に「進路意識に関する」アンケートを行い、進路学習を通して進路に対する意識が向上した生徒が80%以上となる。
	2年	主体的・対話的で深い学びを実現し、ICT機器を効果的に利用することで、生徒の学力を向上させる。普通科・国際情報科は進研模試の成績、商業科は検定合格者をそれぞれ向上させる。	授業(予習・復習)や課題の指導、小テスト、検定補習、土曜講座、OJTチームや総務課や図書課と連携してICT機器の活用を促進	・普通科・国際情報科は、進研模試の国数英総合・5科総合の平均点偏差値がいずれも48.0以上になっており、国数英総合・5科総合の偏差値50以上が80人、60以上が5人以上になっている。 【現状(普通科・国際情報科)進研模試 平均点偏差値3カ年平均(国数英総合47.6、5科総合46.8) 昨年度 偏差値50以上(国数英総合77人、5科総合55人) 昨年度 偏差値60以上(国数英総合3人、5科総合2人)】 ・商業科は、情報処理検定と簿記実務検定における1級合格者が50%以上になり、全商英語検定1級合格率は10%以上になっている。 【現状(商業科) 情報処理検定1級合格率48%(63回23人、64回16人)、簿記実務検定1級50%(90回0人、91回40人) 全商英語検定1級合格率3%(9月0人、12月3人)】 ・学校自己評価アンケートの次の項目において肯定的評価が80%以上となっている。 【現状「学校はコロナ禍でも、学習活動や特別活動において、課題提示やICT活用等で工夫した学習機会を提供している。」76.2%】
3年	主体的・対話的で深い学びの実現を核とし、ICT機器も利用して授業力向上に努める。傾聴力と発信力に重点を置き、企業(大学)担当者や活発にコミュニケーションが図れる人材を目指す。	ICT機器も利用して授業力向上に努める。主体的・対話的で深い学びができるように授業改善を図る。授業内外で、論理的思考力を育成し、傾聴力・発信力を伸ばす。	学校自己評価アンケートのICT活用に関する項目(24)について「よくあてはまる」と答える生徒の割合が前年度より5%アップする。 【前年度は37%】 アンケートをとり、4月に比べて「傾聴力」「発信力」が伸びたと答える生徒が60%を超える。	
3	総務課	各科・課・教科等との連携を深め小中学校に向けた広報活動の充実を図る。	・学校説明会、オープンスクールを通して中学校の先生方や中学生・保護者に本校の教育活動について理解してもらえよう努める。	・実施後のアンケートにおいて「本校の教育活動についてよく理解できた」がそれぞれ75%を超えている。 (R1:69.1%)
	学力向上委員会	主体的・対話的で深い学びを実現し、学力向上に資する授業力の向上を図る。新学習指導要領実施に向け、目標と評価の一体化について研究し、次年度導入に向けた準備を行う。	・OJT校内チーム研修でクロムブックを活用した授業のあり方を研究し、課題の共有、実践を行う。 ・生徒向け授業アンケートを年2回実施し、授業改善に役立てる。 ・新学習指導要領導入に備え、ルーブリックを活用した授業研究を行う。	・研究授業を実施または参観した教員の割合が100%(教員)【現状100%】 ・学校自己評価アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のマイナス評価の割合が15%以下【R2年度17%】
	普通科	キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じ、人生設計の一部としての進路意識を持たせ、生徒一人一人の目標達成のために取り組む力をつけさせる。	進路指導課・学年・担任・教科と連携し、LHR・CGT・担任面談を通して進路(学習)への意識を高め、進学を見据えた学習活動の充実に向け働きかける。特に、1年次の文理選択LHRを科集会として行い、将来を見据え2・3年時にぶれない選択をさせる。	学年団・進路・教務課と連携して日程調整をして、夏休み前にLHRで科集会を持ち、文理選択を説明する。 ・学校自己評価アンケート「進路に関する情報が適切に提供されている。」の項目のマイナス評価の割合が5%以下【R2年度7%】